

福岡観世会定期能

2019年(第二回)



能

葵 あおいの

上 うえ
梓之出

森本 哲郎

狂言

咲 さつ

暁 か

野村 万禄

能

小袖曾我 こそでそが

観世三郎太
観世 清和

とき 5月18日(土) 午後1時始
ところ 大濠公園能楽堂
入場券 自由席 7,000円
発売所 大濠公園能楽堂事務所
092-715-2155



附
祝
言

葵

咲

小袖曾我

今村嘉太郎
森本 哲郎
上
梓之出
間

能

福王茂十郎
矢野 晶平
アイ 吉住

大鼓 守家
小鼓 幸
講

由訓 太鼓 吉谷
正佳 笛 森田 徳和 潔

小倉要二郎
井内 政徳
山口剛一郎
武富 昭

坂口 貴信
今村 嘉伸
多久島利之
鷹尾 章弘

屋 島
鐘ノ段
大江山

△休憩十五分△

仕 舞
坂口 貴信
木月 孚行
角 寛次郎
山本 章弘

井上裕之真
久保誠一郎
鷹尾 維教
関根 祥丸

野村 万禄
小アト 吉良 博靖

アト 吉住 講

久保誠一郎

鷹尾 章弘

後見
坂口 貴信
木月 孚行

△休憩十五分△

大鼓 白坂 信行
小鼓 飯田 清一
笛 相原 一彦

井内 政徳
関根 祥丸
山口剛一郎
久保誠一郎

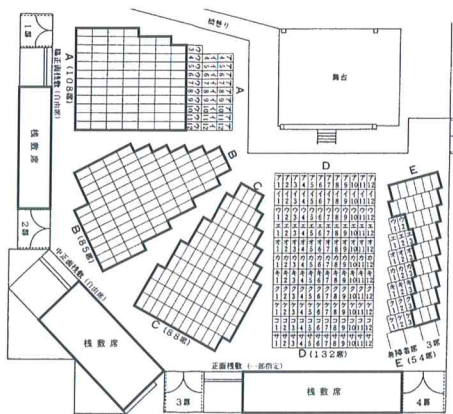
今村 一夫
鷹尾 維教
角 寛次郎
鷹尾 章弘

網ノ段
嵐 山
仕 舞

能

多久島法子
菊本 澄代
長宗 敦子

松田美栄子
菊本 美貴
今村 宮子
木月 晶子



※番号が書かれていない席は自由席です ※残数席は自由席です

第二回予告

2019年12月7日(土)午後1時始

能 野 宮 多久島利之
能 清 水 野村 万禄
能 車 僧 今村 一夫

小袖曾我

建久四年(一一九三)五月二十八日、富士の裾野で曾我兄弟が仇討ちを果たした事件は、以降も、数々のエピソードが加えられ、所謂曾我物として人気が高まり、物語となりました。

曾我十郎佑成と五郎時致、団三郎、鬼王の兄弟は、源頼朝一行が富士の裾野で巻狩りを行うという情報を得、この機会に、親の仇、工藤佑経を打つ決意を固めます。

それとなく暇乞いをし、更に勘当されている五郎を許してもらうため、母の許を訪ねます。母は十郎を喜んで迎えますが、出家になれと勧めたのに背いた五郎には怒って会おうとしません。十郎のとりなしも役には立たず、母に恨み言を述べ、兄弟が立ち去ろうとした時、母も本心を抑えきれず、ようやく五郎の勘当を許します。

場面は狩場への門出を祝う宴と変わります。皆と酒を飲み交わし、兄弟共に立つて舞い、親子の最後の対面を涙ながらに心に刻みますが、時は待つてくれません、狩場に遅れぬよう、母と別れて出立するのでした。

いつの世も変わらぬ親子兄弟の情の深さと、それに続く男舞の相舞の鮮やかさが一際印象に残る曲です。

葵 上・梓之出 (あずさのう)

あまりにも世に知られた源氏物語の一章が題材になっております。葵上は左大臣の息女、光源氏の正妻です。物怪に悩まされ病に臥しているその姿は、舞台正先に出された小袖にて表します。

あらゆる手を尽くしても快方に向かわない葵上の為に、延臣が巫女を召し出し占わせます。すると、光源氏の愛人であった六条御息所の生霊が現れ、愛を失った悲しみと恨みを切々と述べ、更には葵上の枕元にまで近付き責め苛むのでした。

ついには鬼女の姿となった御息所の生霊に、横川小聖が祈禱で対峙します。シテは凄惨なまでの愛情と執念を表現いたしますが、あくまでも高貴な女性として、ワキもひるむ程の品格が滲み出ます。

梓之出の小書により、シテは本来自らの意思で登場したのではなく、巫女の鳴らす梓弓の弦の音により、引かれて、姿を現したという趣が強調されます。

主催／福岡観世会